

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0770101731		
法人名	有限会社 アイ・エヌ・エス		
事業所名	グループホーム ハートピア		
所在地	〒960-8131 福島県福島市北五老内町3-9 (電話) 024-531-3033		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年4月28日	評価確定日	平成20年6月5日

【情報提供票より】(平成20年3月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <u>平成</u> 15年 4月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	20人	常勤13人、非常勤 5人、常勤換算14人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階建ての 1 ~ 3 階部分		
------	--------------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,500 円	その他の経費(月額)	4~6、9、10月 10,000円 7、8、11~3月 12,000円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性 0名	女性 18名
要介護1	7名	要介護2	2名
要介護3	5名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 82歳	最低 69歳	最高 99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福島西部病院、南循環器科病院、きくち医院、Dr.Kクリニック		
---------	--------------------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市街地に位置し、玄関前に市内循環のバス停がある交通の便が良い都市型施設である。ホームが入っている3階建ビルは1階が協力医療機関の診療所になっており、月2回の診察が受けられる。近隣には眼科、歯科、内科、外科等の医療機関が多く、恵まれた環境である。ホームでは近くの小学校との交流や中学生の職場体験、大学の福祉科の学生や介護関係の学校の体験実習の受け入れやボランティアの受け入れ等地域密着型サービスを踏まえた活動に積極的に取り組んでいる。設立後5年経過し、職員と利用者の馴染みの関係がうかがえ、利用者の穏やかな笑顔が印象的である。

【重点項目への取組状況】

重 点 項 目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を全職員で話し合い、地域密着型サービスに即した理念の作成や地域の交流に積極的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は介護サービスの質の向上の基本であるとの認識から職員全員で取り組んでいる。
重 点 項 目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は定期的に開催しており、内容はホームの行事報告や体験学習の受入、防災・防火対策、感染症対策・事故報告等を多岐にわたっており、回を重ねるごとに地域や関係者の理解が得られ、小学校との交流やボランティア等の受入も委員からの働きかけで実現してきた。運営推進会議の重要性を管理者はじめ職員が認識して取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員が交代で利用者の現況やホームの行事等を家族へはがきで知らせている。毎回違う職員からの便りは家族からとても好評で、面会時にはこのはがき通信が話のきっかけとなり、気軽に話してもらえるようになってきている。また、そこで出された意見等はすぐに職員で話し合い、運営に反映させている。
重 点 項 目 ③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ボランティアの訪問が多く、また、地域の小学校との交流が定期的になってきており、ホームの存在も広く認知されるようになってきている。最近では小学校だけでなく中学校や大学、専門学校等の体験実習に多くの学生を受け入れるなど地域とのかかわりが増えている。さらに運営推進会議等の協力を得て、地域との連携を図りたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の下で自立した日常生活」「利用者の人格尊重」「地域や家庭との結びつきを重視した支援」等3つの柱からなる地域密着型サービスをふまえた運営理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は新しく作成した地域密着型サービスの理念は把握しているが、職員全員での理念の共有が不足している。	○	管理者はミーティングや職員会議等でことあるごとに職員に伝え、理念の共有を図り、実践に向けて取り組まれることが望ましい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年小学校の学習発表会への招待を受け全員で参加しており、小学校の校外学習では児童がホームを訪れて相互に交流をしている。また、ホームではボランティア（フラダンス、日舞、大正琴、津軽三味線等）を数多く受け入れている。その際に近隣の施設や住民に呼びかけ参加してもらうことを企画し、準備中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を職員全員で話し合い改善に向け取り組んできた。また、自己評価は毎日の業務を振り返る貴重な機会と捉え、全職員で取り組んでいる。また、この評価結果を今後のサービスに活かしていく姿勢がうかがえる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的に開催され、内容はグループホームの行事、事故報告、防災対策、感染症対策、体験学習の受け入れ等多岐にわたって協議されている。委員の助言（小学校との交流会等）で地域との交流の機会が増えてきている。		
6	9				

4. 理念を実践するための体制

7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしづくりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等には、2ヶ月に1度利用者の近況を職員が手書きのコメントで報告している。また、状態に変化があったときには随時報告し情報の共有に努めている。毎月請求書送付の際に小遣い銭の明細・レシートを同封し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族全員に参加を呼びかけ、できるかぎり出席してもらっている。職員が交代で利用者の近況をはがきで知らせ、家族から気軽に意見や苦情を言えるような雰囲気作りをしている。また、このはがき通信は家族から大変好評である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者との馴染みの関係の重要性を十分認識しており、職員の交代については十分配慮しているが、止むを得ない場合には、利用者の動搖を最小限に抑え、利用者が納得いくようにしっかり説明している。ここ一年あまり職員の異動はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じて種々の外部研修に計画的に参加しており、その結果はミーティングの場で報告し全職員に伝達している。資格取得者には待遇に反映させている。向上心の強い職員が多くたのもしく感じた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム連絡協議会の研修会や事例報告会に参加し、同業者と情報交換をしている。また、市内にある医療法人のグループホームとの職員の交流を計画中である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するするために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なこと(習字、生け花)や趣味(編み物等)が続けられるように支援している。共用の居間に利用者が書いた理念が掲げてあり、玄関には利用者が生けた花が飾っている。また、職員と一緒に居室の掃除や洗濯をしたり、職員と利用者が自然体で日常の生活をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が手帳やメモ帳をポケットに入れており、利用者の言葉やしぐさ等気がついたことを書き留め、常に意向の把握に努めている。また、面会時に家族等にそれを伝え、さらに情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員が気づいたことや利用者の状態の変化等を職員で共有し、ミーティングの場で計画作成者はそれらを把握し介護計画に反映させる体制となっている。また、些細なことでも申し送りや連絡帳に記入し、常に職員全員が情報の共有に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しは6ヶ月ごとに行っている。また利用者の状態の変化については、その都度ケアマネジャーに報告し、随時介護計画の変更をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度、協力医がホームの1階にて定期診察をしている。また、本人や家族が希望するかかりつけ医の受診についても支援している。眼科、歯科は近所の医院を利用しておらず、職員が対応しているが受診の際には家族の同意を得ており、受診後には結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関する指針」や「看取りに関する指針」を作成し、利用者及び家族、身元引受人に説明し、同意書を作成している。また、職員も対応に関する方針について共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄等の声かけはさりげなく耳元で行い、誘導している。個人の記録は書棚に保管し、鍵をかけている。また、利用者・家族から個人情報利用の同意書を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、外出、就寝等は利用者一人ひとりの状態や希望に応じて支援している。利用者からの要望で週に一度お楽しみ会（アルコールもあり）を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者にとってとても楽しみなものとの観点から、美味しく見た目も美しくモツトに供されており、利用者は自分のできること（配膳、後片付け等）を自然に行っており、職員は利用者と一緒に食事を楽しんでおり、傍においてさりげなく介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂場は檜のすのこで、季節によっては菖蒲湯等にして香りを楽しみながらゆったりと入浴できる。入浴時間は一人ひとりの状態や希望に合わせている。また、希望者はヘルシーランドの大浴場に出かけており、利用者及び家族から好評である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者が得意なこと（刺し子、折り紙、ドリル、塗り絵等）を続けられるように支援している。材料は利用者ごとにボックスに入れて、自由に自分の好きな時間に行っている。ホームの畠では職員と一緒に野菜や花を育てている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に岡かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	天気のいい日には散歩や買い物の支援をしており、利用者の体調や状態に応じて2、3回に分けて行っている。花見（御倉茶屋、四季の里）、ミニ旅行（聖アンナ教会、こけし館、紅葉見学）、デパートへ生花展示会見学等、外出の機会を多く計画し、実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上や玄関のすぐ前が市内循環バスの停留所という環境上、開設時に行政の指導により玄関の鍵はかけているが、2階と3階のエレベーターは開放されている。全職員が鍵をかけないケアを充分認識しており、利用者の行動を把握し必要に応じて対応している。		2階・3階の非常階段にナンバー付の鍵が扉に設置されているが、鍵をかけないケアのためには工夫してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施しており、利用者全員避難訓練に参加している。また、消火器の使い方や火災報知機操作等の訓練を受けている。災害時の備蓄は飲料水だけとなっているので、食料品等についても備蓄することが望ましい。		災害時に地域住民の協力が得られるよう、運営推進会議等を通じて地域との連携を図っていくことが大切である。また、職員間の伝達方法や時間、夜間の連絡網等場面を変えて訓練されることを望む。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量についてはチェック表に細かく記入し、利用者の体調管理に役立てている。利用者が集まる居間にはお茶のセットが用意され、自由に飲むことができるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはテーブルやソファーが機能的に配置され、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。利用者が鉢植えの植物や季節の花の世話をし、金魚やめだかも飼育している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔に保たれ、利用者が使い慣れた家具やテレビを持ち込み、独自の雰囲気の居室となっている。それぞれが自由に自分の部屋で好みの番組や音楽を楽しんでいる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事 業 所 名 グループホームハートピア

記 入 担 当 者 名 二瓶 美和

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。